



目次

- P.1 いわくらサステナブル・ファッションショー
 P.2 ブラジルで活動中の石原さんからの便り
 P.3 スペイン留学中の林田さんからの便り
 P.4 SDGs をキーワードに、多文化な環境を生かしたツール作成

ますます強化されてきた国際学部!

2025 年度から始まった新しいカリキュラムに基づき、国際学部の教育と活動はさらにバージョンアップしつつあります。今号では、ブラジルとスペインで活躍中の先輩からの便りも含めてお届けします。

□ いわくらサステナブル・ファッションショー

今号では、11月に行った岩倉市立南部中学校でのSDGsブース出展、いわくら市民ふれあまつりでのSDGsファッションショーの様子と、1月に行った外国籍住民向け日本語教室「いわくらにほんごクラス」でのSDGsをテーマにした交流の様子をお届けします。岩倉市SDGs普及推進事業の委託を受けて、岩倉の方々といろいろな活動を展開しました。



1. いわコレ25の企画・運営

岩倉市市民まつりのメインイベントの一つとして、いわくらサステナブル・ファッションショー(いわコレ25)を企画・運営しました。1年生から4年生までの13名が、公募で選ばれた市民とともに、思い思いのサステナブルなファッションを披露し、大きな拍手をいただきました。市長も登場。

2. 岩倉市南部中学校ふれ愛フェスティバルブース出展

今年も、岩倉市立南部中学校のふれ愛フェスに出展。中学生と楽しみながら遊んでSDGsを学べるコーナーとして、SDGsカルタ体験、SDGs神経衰弱、SDGsすごろく(人生ゲーム)、SDGs缶バッジ製作を行いました。

3. いわくらにほんごクラスコラボ事業「SDGsについてみんなではなそう」開催

岩倉市内で外国籍住民向けに日本語教室(初心者向け)を開催している



市民活動団体「いわくらにほんごクラス」とコラボレーションし、カリキュラムの一つとして行いました。SDGs紹介動画を視聴した後、グループに分かれ、SDGsのゴール4(質の高い教育をみんなに)、ゴール6(安全な水とトイレを世界中に)、ゴール11(住み続けられるまちづくりを)について、参加者の母国と日本の状況を対話しながら交流しました。

□ ブラジルで青年海外協力隊の日本語教育隊員として活動中の石原さんから

(石原 千嘉 2023 年度卒業 丹羽高等学校出身)



日系人もブラジル人もみんなで踊ろう

Oi, tudo bem?

2024 年 3 月に国際学部を卒業した石原千嘉です。現在、私は日本との時差が 12 時間あるブラジル、サンパウロ州イビウーナ市で日本語教師をしています。

皆さんは、ブラジルと聞くとどんなイメージを思い浮かべますか？サンバやサッカー、カーニバルを思い浮かべる方も多いでしょう。もちろん、皆さんがイメージすることも正解です。私が実際に住んで感じるブラジル最大の特徴は、多文化であることです。植民地時

代の影響、アフリカからの奴隷制度、移民政策などの歴史的背景に加え、日本の約 2.3 倍という広大な国土で各地域独自の文化が混ざり合い、多文化社会が形成されています。特に日系人（日本にルーツを持つ人々）は世界で最も多くブラジルに住んでおり、私が住むイビウーナ市にも 300 世帯以上の日系人が暮らしています。ブラジルには、日系人の団体として文化体育協会（以下、文協と略す）があり、日本語学校、陸上部、太鼓部、カラオケ部、マレットゴルフ部、ソフトバレー部、野球部などを通して、日本の文化やスポーツを継承しています。



童心にかえって玉入れ

イビウーナ文協も非常に積極的に活動しており、地域に大きな影響を与えています。設立当初は、日系団体として日系人の心の支えとなっていました。現在ではブラジル人の加入も増加傾向にあり、地域全体の人々の心の支えとなる団体へと変化しています。ブラジルでは、イビウーナに限らず、どこの町へ行っても日本食レストランがあり、刺身やラーメン、タレは広く知られ、好まれています。また日本の伝統行事である運動会や盆踊りも多く行われており、参加者は年々増えています。「Konnichiha」や「Arigatou」といった日本語の挨拶も町中でも耳にすることがあります。しかし、これは良い面である一方、課題でもあります。かつて継承語・継承文化であった日本語が、外国語・外国文化としての日本語に変わりつつあるからです。その背景には、日常的に日本語を使う場面が減少していることが挙げられます。

一方で、日本のアニメの人気により、日本語への興味が湧きやすいことも事実です。この変化をどの程度受け入れつつ、今後言語や日本文化を守り受け継いでいくのか。また、ブラジル文化と日本文化の融合として、今後どのような変化が起きるのか、私は楽しみに感じています。

□ スペインのサラマンカ大学留学中の林田さんから

(林田 香 2022 年度卒業 藤ノ花女子高等学校出身)

現在、スペインのサラマンカ大学(University of Salamanca)で約1年留学しています。サラマンカ大学はスペイン最古の大学であり、綺麗なスペイン語と研究機関が充実していることから選びました。

教育学部・教育社会学科に所属しながら学生生活を送っています。皆さん、教育社会学という分野を聞いたことはありますか？私はなかったです。恐らく日本の大学では、あまり耳にしない学科だと思います。簡単に学んでいる内容を説明すると教育が社会に与える影響やその関係性を多面的に学ぶ分野です。「教育学」と「社会学」の要素を併せもつ学問です。スペインでは、教育社会学者として就職を目指す学生も多くいます!!



留学先の風景

学部時代と大学院生の私 外国にルーツを持つ学生として

私は3年次編入がきっかけで日福に入学しました。外国にルーツを持つ学生との出会いや多文化共生の分野に関する科目、ゼミの仲間との出会いにより、自分が何者なのか少しずつ探求する研究の旅が始まりました。大学院進学を試みた場でもあります。

日系ペルー人の研究

学部時代の経験を活かし、現在大学院の博士前期課程に所属しています。日系ペルー人を対象に日本で教育経験を有した方の事例研究をしています。留学を通じて教育と社会学の分野を深め、多様性のあり方を考える機会、さらに多文化共生が本当の意味で実現できるのかを考えるきっかけになればうれしいと思っています。

今後の目標

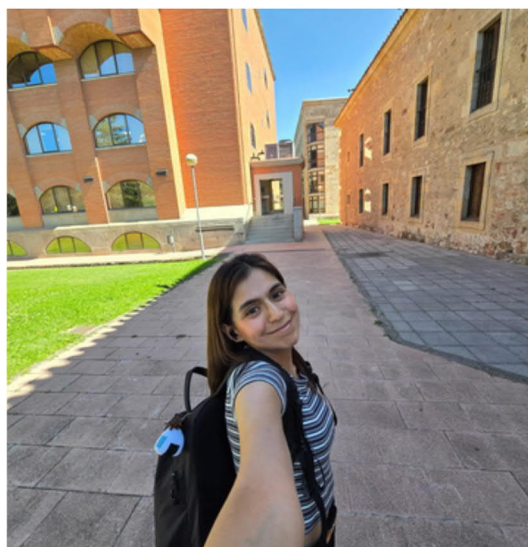
将来、確実にどんな道に進むべきか、まだ定まってははいないのですが、日系人として日本で育ち、研究していること、様々な素敵な出会いや思いがけない経験が訪れたことに意味があると思います。修士課程で研究している内容が外国にルーツを持つすべての方の懸け橋となる人材へと繋がるよう成長することを目指しています。

スペインの大学留学～議論する毎日～

スペインでは授業だけでなく、友人との時間でも自分の意見が求められます。私の考えや経験を発する機会が増え、最初は慣れないことばかりでしたが、最近ではスペインの学生に負けないくらい自分の疑問や意見を伝えられるようになってきました。

最後に一言

この度、留学活動報告書を通じて私の経験を伝える機会を頂いたすべての先生方に感謝いたします。今後の留学生活やこれから先の研究等を見つめなおすことができました!ありがとうございます。私は卒業生という立場ですが、“*Todo se puede en esta vida si te lo propones*”(自分を信じていれば、道は拓ける)という言葉を実践しながらこれからも活躍したいです。皆さんのご活躍を応援しています!!



キャンパスにて

★SDGs をキーワードに、多文化な環境を生かしたツール作成

担当教員 千頭 聡

東海市大学連携まちづくり推進事業の補助金などを活かして、広く市民が SDGs を理解し、自分事として行動していくことができるように、活動に取り組んでいます。

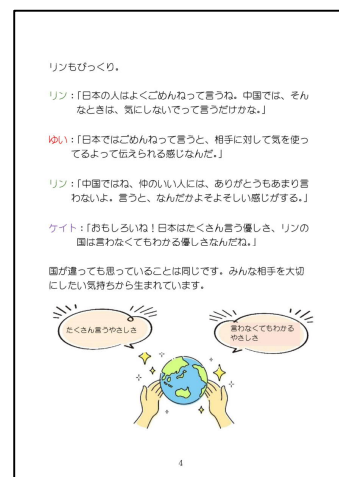
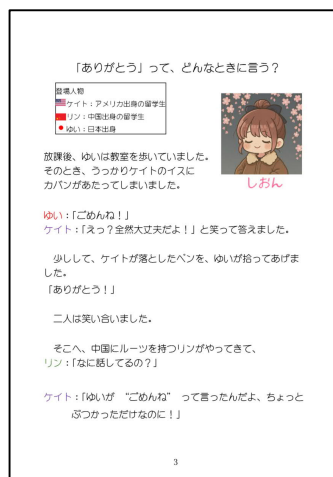
1. 世界初! 7 言語版 SDGs かるたの制作と配布

過年度から取り組んできた SDGs かるたの世界バージョンとして、カースティゼミ、千頭ゼミ合同で、タイ語・ネパール語・インドネシア語・ベトナム語・シンハラ語・ミャンマー語・英語の 7 言語ごとに、それぞれの文字と言葉を用いて、おそらく世界初の SDGs かるたを制作しました。希望者には PDF ファイルをお渡しできます。



2. 身近に異文化を理解する物語集の制作・配布

2 年生の日本人と留学生 17 名が、ともに学び、時間を共有するなかでふと感じた文化の違いとその理解について、34 の小さな物語集ができました。ぜひとも手に取ってお読みください。PDF でお渡しすることもできます。



◎2026 年度 東海キャンパスでのオープンキャンパス日程

2026 年 5 月 17 日 (日)、5 月 30 日 (土)、8 月 1 日 (土)、8 月 2 日 (日)、8 月 30 日 (日)、9 月 27 日 (日) 2027 年 3 月 21 日 (日)

発行人：日本福祉大学 国際学部

〒477-0031 東海市大田町下浜田1071番地

TEL. 0562-39-3811 FAX. 0562-39-3281

編集人：国際学部 学部長 佐藤 慎一

問合先：東海事務室 国際学部担当 (kokusai@ml.n-fukushi.ac.jp)

Instagram



@NFU_KOKUSAI

フェイスブック



学部教員紹介

